

平成 25 年 5 月八戸市教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 平成 25 年 5 月 29 日(水) 午後 1 時 30 分
- 2 場 所 市庁本館 3 階 議会第 1 委員会室
- 3 委員氏名
- | | |
|----------|---------|
| 委員長 | 岡 本 潤 子 |
| 委員長職務代行者 | 小 柴 一 弘 |
| 委員 | 武 輪 節 子 |
| 委員 | 築 瀬 眞知雄 |
| 教育長 | 伊 藤 博 章 |
- 4 職員氏名
- | | |
|--------------|------------|
| 教育部長 | 佐 藤 浩 志 |
| 是川縄文館長 | 小 林 和 彦 |
| 教育部次長兼教育総務課長 | 澤 田 多嘉男 |
| 教育部次長 | 嶋 脇 郁 夫 |
| 図書館長 | 津取場 重 行 |
| 学校教育課長 | 齋 藤 信 哉 |
| 教育指導課長 | 正部家 光 彦 |
| 社会教育課長 | 船 田 泰 寛 |
| 是川縄文館副館長 | 前 田 美智子 |
| 総合教育センター所長 | 井 上 貫 之 |
| 博物館副館長 | 小笠原 善 範 |
| 北地区給食センター所長 | 中 里 親 弘 |
| 東地区給食センター所長 | 板 橋 稔 |
| 西地区給食センター所長 | 清 川 彦 一 |
| 市史編纂室長 | 藤 田 俊 雄 |
| 教育総務課参事 | 尾 崎 雅 祥 |
| 社会教育課参事 | 田 中 勉 (欠席) |
| 教育総務課副参事 | 小笠原 光 則 |

(事務局員) 教育総務課主査 佐藤 正樹

岡本委員長	<p>ただいまから、平成 25 年 5 月の教育委員会定例会を開会いたします。 本日の議事録署名は武輪委員を指定します。 それでは教育長から、主な会議・行事等について説明をお願いします。</p>
伊藤教育長	<p>(資料に基づき説明)</p>
岡本委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いします。</p>
小柴委員	<p>4 月 28 日に家庭倫理講演会とあるのですが、どなたが講演なさって、どうい う内容なのか、お伺いしたいと思います。</p>
船田社会教育課長	<p>今資料を持ち合わせていないので、後ほどお知らせいたします。</p>
小柴委員	<p>これは毎年やっているものですか。</p>
伊藤教育長	<p>去年から始まったものです。</p>
船田社会教育課長	<p>社会教育課で後援などしていきまして、今回はご挨拶をいただきたいということ でしたので教育長が出席いたしました。</p>
岡本委員長	<p>それでは、議事に入りたいと思います。本日提出されております議案を審議い たします。 議案第 36 号「八戸市博物館協議会委員の委嘱について」事務局からの説明を お願いいたします。</p>
小笠原博物館副館長	<p>(議案第 36 号「八戸市博物館協議会委員の委嘱について」に基づき説明)</p>
岡本委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたしま す。 (質疑なし)</p>
岡本委員長	<p>それでは、議案第 36 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。 (異議なし)</p>

岡本委員長	ご異議がありませんので、議案第 36 号を原案のとおり決定いたします。
岡本委員長	<p>以上で議案の審議は終わりました。</p> <p>次に報告事項にまいります。</p> <p>「平成 25 年度学校目標の内容について」事務局からの説明をお願いします。</p>
齋藤学校教育課長	(資料「平成 25 年度学校目標の内容について」に基づき説明)
岡本委員長	ただいまの説明につきまして、ご質問がありましたらお願いいたします。
築瀬委員	<p>今、齋藤課長から詳しく説明がありましたが、当然のことですけれども、教育の大きな目的というのは人格の完成なので、簡単に言えば知・徳・体の調和のとれた人間の育成ということになると思います。</p> <p>この学校目標を見て、さっき説明があったように、学習面に大きく傾いてきている傾向がここ 3 年ぐらいで顕著になってきていると私自身は感じています。この 1 ページ目の表だけを見ると、中学校はそうでもないんですが小学校だけを見ると、ほとんどの学校、4 校を除いてですから 43 校という形になります。そして、それを支える心、徳ですとか、体の健康というのは、この表では 2 校ずつとなっています。学習面に心が含まれる場合も、白鷗小や長者小などのようにあるとは思いますが。</p> <p>そういった数の具合というのは、「確かな学力の保証」という市教委が目指す方向性から見れば心強いですが、市の方針で掲げている「いのちの教育」とか「生きる力」の育成といった面から見ると、また現在の社会情勢とか、いじめ問題も含めた子どもたちの状況から考えると、私はちょっと気がかりな面も逆にあります。このことについて、何か考えていることはございますか。</p>
齋藤学校教育課長	<p>私はこの制度が導入されたときから携わっておりまして、導入当時は築瀬委員さんがおっしゃったように、学校目標も知・徳・体の 3 つに視点を当てた目標が立てられておりました。それを踏まえて、各自の自己目標が設定されるわけですが、学校には学校目標、努力目標、さらには学級目標、学年目標と目標がたくさんあります。その中で、先生方が今年度目指すべきものは何だろうかと言ったときに、なかなか向かう方向が定まらないというような感じがしました。</p> <p>私たちがこの学校目標、人材育成評価制度を進める中で、学校にお願いしてきているのは、学校目標として掲げた部分はあくまでも重点施策ですと。その他の例えば徳とか体の部分は、やらなくてもいいということではありませんと。あくまでも学校は、知・徳・体で進んでいくものなのですが、先生方の意識としては、その中でも特にこの部分に意識しながら、方向性を定めて一緒にやっていきまし</p>

	<p>よう、というような内容で説明してきております。</p> <p>また、学校によっては、単年度とは言うのですが、例えば3年計画の中で最初 は徳の部分、そして体の部分、最終的にそれらを総括して知の部分というように 設定している学校もあります。よって、単年度とはいえ、それぞれ継続性、発展 性を意識した目標ということで、最終的な学校教育目標の知・徳・体を目指すと いうような内容になってきていると感じておりました。ここはやはり6年間の中 で、各学校が今まで工夫してきた部分ではないかなと私は捉えております。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>分かりました。学校にはいろんなタイプがあつて、課題もそれぞれの学校で違 う、地域の状況も違うところで、一定の方向にというのはなかなかできないし、 やっちはいけないと思います。そういう方向で、3年計画でやっている学校もあ るという説明もあつて、それを認めてくださっているというのはとても有難いな と。今後もそういう面で、学校の特徴を是非活かしていつていただきたいと思っ ております。</p> <p>ただ、短期的に達成すべき目標といっても、短期的な目標となるとどこでも同 じ目標が、どこの学校でも基礎学力とか、短期で達成できる目標というのはかな り限られてくるということもこの表から感じられます。ですから、今課長さんが おっしゃったように、そういった面だけではなくて、あくまでもこれはその中で も最重点で、他のことも同時進行でやるんだという理解がもっと進んで欲しいな と思っているわけです。</p> <p>それから、数値目標という話がさっきあつたのですが、これもいい面もあるの ですが、数値目標をあまり奨励しすぎると数値だけを追い求めて、変な話ですけ ど数値に振り回された成果主義、そういったものに陥る心配もないではないのか なと感じます。ですから、心の面がこの単年度で解決すべき学校目標になり難 いのは、そういった面もあると思います。心については、数値だけではなくて、 むしろ子どもたちの表情や発言、何気ない仕草や行動、そういったことの中 に取組の成果と課題が見出されていくと思います。ですから、そのためにはそれ を見るだけのゆとりが先生方にないと、それを与えてあげないと、心を育てる ことは出来ないんじゃないかと思ひます。ですから、先生方には子どもたちと じっくり向き合ったり、見守ったりするゆとりが必要だと、今の傾向を見て感 じるんですけども、今述べたことに関しては何か考えございますか。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>築瀬委員さんがおっしゃったように、ただ単に数値目標という部分に偏ると、 早い話、その掲げた数値さえ達成すればいいということに陥るんじゃないかとい う心配、これも導入当時からありました。よって、数値目標について私たちが学 校に説明しているのは、具体的に見取る手立てを工夫してくださいというふう にお願いしています。じゃあ具体的には何かというのが、いわゆるその部分が先</p>

生方の意識に大きく関わってくる部分なのではないかなと。この制度は、あくまでも企業論理を教育現場に導入したという部分があるわけですが、その企業で掲げている数値が教育現場に全部当てはまるかというところ、そういうものではないというふうには捉えています。ただ、逆に考えると、学校の中に掲げている目標というのは、どちらかというところになって欲しいというスローガ的な目標が多く、どうなったときにそれが達成されたのだろうという部分について大変弱い状況があります。あくまでもこの人材育成評価の目的というのは、先生方一人一人の人材育成、そしてそれに伴う学校組織の活性化という部分にあるのかなと感じていました。この部分については、各学校とも今までもやってきているわけですが、さらに共通理解を図って、有効にこの制度を活用していきたいと考えております。

築瀬委員

ありがとうございます。私の考えていたことも今お話くださったので、有難いなと思いました。企業の利益を上げるためにマネジメントするのは、もちろんそれを今教育に活かそうとしているわけですが、それがあまりにも活かそうとし過ぎると、目先の変容だけに追われてしまって、長い時間をかけて子どもたちを育てるという意識が逆に薄くなってしまっているのではないかと心配があったものですから、今の言葉で大変安心しました。

最後にもう一つだけお聞きしたいのですが、私もホームページなどで見たりしているんですが、平成23年度のホームページでは、小中ジョイントスクール推進事業の重点施策を掲げて、それも関連させてこの学校目標と評価をしていました。そして平成24年度のホームページを見ると、それが消えていたのですが、これからもその小中ジョイントスクール事業で行う小中共通の重点施策、こういったものと関連させてやっていこうという姿勢に変わりはないのか、あるいはそこはちょっと弱まったのか、お聞きしたいと思います。

齋藤学校教育課長

小中ジョイントスクール、いわゆる小中連携については、内容によっては長いスパンで子どもたちを見守って育てていかなければならないと、これは変わりません。よって、この前実施した校長面接でも、その小中連携を踏まえた学校目標、そういうものを工夫してくださいと、あるいは小中で共通した目標でもって取り組むという体制づくりを進めてくださいというふうにお願いをしているところでしたので、単年度とはいえ、そういう小中連携の部分を意識した目標ということではお願いしています。

築瀬委員

ありがとうございます。これからも小中連携は、幼保小も含めてですが、大事な視点として、共通して9年間で育てればより効果が上がるわけですから、そういったものもこれからどんどん推進していただきたいなと思っていました。

<p>小柴委員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>今の築瀬委員さんの質問で納得したんですけども、これを最初見たときに、これだけの少ない文言で目標を定めるというのは、かなり無理があるのではないかということを感じました。それで先ほどの、これはあくまでも重点目標だというお話を伺って納得しました。</p> <p>それから細かいことになって申し訳ないのですが、1枚目の内容区分のところ、小学校と中学校を照合して見たのですが、小学校の2番目の「表現力・書く・話す・言語活動」、それから中学校の2番目の「表現力・話す・言語活動」と、ここで「書く」が抜けているんですけども、何か意図があって中学校のほうは「書く」を抜いたのか。単に抜けてしまったのでしょうか。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>今、学校訪問もスタートしたんですけども、表現力、話す、書く、いわゆるコミュニケーション能力という視点で、課題として挙げられている学校が非常に多いというふうに感じていました。その中で学校によっては、話すためにまずは書く力をという視点で取り組まれている学校もあります。自分の考えをまず書いてまとめてそれを話すと、あるいはコミュニケーション能力を養うためにはその3点を同時にやっていくとか、考え方がそれぞれあるんですけども。</p>
<p>小柴委員</p>	<p>意図があったというわけではないということですか。</p>
<p>大館学校教育課 指導主事</p>	<p>小・中で分類した段階で、中学校はどちらかというとコミュニケーションや表現といったときに、口が重くなっているので、「話す」という目標を掲げる学校が多いです。それを「書く」という作業から取り組むという学校は、中学校はあまりないです。小学校は発達段階なので、書いて、書いたものを話せるようにという段階を踏むという形がありますが、中学校にはあまり「書く」というところを学校目標に掲げているところはないので、ここには書いておりません。</p>
<p>小柴委員</p>	<p>はい、分かりました。</p> <p>それからもう1つなんですけど、細かく見たわけではないんですけども、「立腰・体力」のところは鮫小と新井田小が入っていて、鮫小は大体「立腰」だろうなど。新井田小は何を掲げているんだろうかということで見たら「進んで高めようとする子の育成」とあったのですが、これは説明を聞いてここに入れたのか。この文章を読めばむしろ「主体性・意欲」に入るのかなと思ったのですが、これも何か理由があったんでしょうか。</p>

大館学校教育課 指導主事	<p>新井田小学校は、昨年度は「投げる、走る、跳ぶ」というところで、体力に係る目標を掲げて取り組んでいて、表現もそれがメインで出ておりましたので、そこに分類しておりました。今年度も実はそれを継続しながら、さらに体力面からちょっと他の活動にもそれを活かして、体力だけではなく高めることに取り組んでいこうということになりました。メインは体力のところなのですが、表現としては「自ら高める」という表現だけが残りましたが、内容としては体のことが含まれているということでそこに分類しております。</p>
齋藤学校教育課長	<p>少し補足すると、校長面接のときに、校長先生が最終的に目指すところは学習の意欲というところをお話していました。その意欲を高める手段として、まずは体力面に関心を持たせて、自分の体力はどれくらいかと、どうやったら高まるのかと、そういうところでもってやっていきたいと。その背景には、不登校とか登校渋りとか、そういう部分の解消も含まれているというような話もありました。</p>
小柴委員	<p>はい、分かりました。</p>
武輪委員	<p>この「学校目標の内容について」という3枚ものの資料を見るだけでは分からなかったことが、今のお話の中でよく分かりましたし、今年度もそうですが、昨年度も何校か学校訪問をご一緒させていただいた中で、学校の校長先生や教頭先生、教務主任の先生方とのやり取りの部分も踏まえて、学校目標ということについて少し分かったような気がしました。</p> <p>保護者の立場から申しますと、この学校目標というのは、私の想像ですが、保護者には浸透していないというか、うちの学校はどういうところに今年度向かっているとか、こういうところが重点施策であるというようなことは、保護者はたぶん分かっていない方が多いと思います。どこの学校も4月の第1回目の参観日のときのPTA総会の際に、校長先生のお話があつて、たぶんその段階で今年の学校目標はというお話をする機会を設けていらっしゃると思いますが、各学校によって違うとは思いますが、参観日は子どもが発表する場だったり教室には保護者の足が向いても、大きな総会であつたり、校長先生の目標についてのお話があつたりという体育館の場とか、学年懇談の場には足が向かない保護者が年々増えていっているのではないかなと思います。ですので、直接校長先生からの言葉を聞いたりですとか、文章だけでは読み取れない学校の経営方針とかということころが、たぶん保護者には伝わっていないのではないかなと思います。それでも文章を何度も繰り返し発信することによって、少しずつ保護者も分かる、なおかつ学校にも足を向けていただく、子どもだけではなく先生方ともコミュニケーションを取る場を増やしていくような努力を、たぶんしていらっしゃると思うんですが、さらにこれからもっともっと努力する時間が必要ではないかと思っていま</p>

<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>す。良い方向を向いて学校として取り組もうとしているところを、やっぱり保護者にも分かっていただいて、保護者と先生と力を合わせて同じ方向を向いていけば、子どもたちも良くなると思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>今武輪委員さんからお話があったように、家庭への発信という部分については、まだまだ弱いなと感じています。私たちの願いとしては、先ほど築瀬委員からもあった小中連携だけではなくて、家庭との連携という部分でもこの制度を効果的に活用していただきたいと考えているところでした。ただ、確かな学力云々となったときに、学校は学校で抱えてしまうといいますか、家庭との連携が本当は1番重要なんですけれども、その部分がまだまだうまく説明しきれていないと。それから逆に、生活習慣とかあるいは家庭読書とかそういうことを学校目標に掲げたところなど、積極的に家庭に発信している学校もあります。やはり家庭との連携というのは不可欠ですので、どんどん発信をして、そして家庭との連携をしっかりと取り付けてやっていくところまで活用できればいいなと考えておりました。武輪委員さんからお話があった部分も踏まえて、これからも頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>それぞれの委員でご感想をお持ちだと思いますけれども、私もこれを拝見して、本当に小学校の発達段階と、中学校の発達段階できれいに分かれているなという感想を持たせていただきました。</p> <p>小学校の基礎学力というのは果たしてどういうところを、先ほどそれが抽象的だという課題があるということをおっしゃられたので、そういうことも含まれているのかなと思いました。</p> <p>中学校のほうは発達段階的に、自己というものを、先ほどの大館先生のお話のように自分をというのがなかなか難しいというのはその通りだろうなと思いついて、各学校ともにそれが出ているということは、今の中学校の現状とか、その発達段階ならではものだなと思います。</p> <p>その小学校の基礎学力というのは、果たして具体的にそれぞれ共有できるかなという難しさと、一般の目から見ると、基礎学力というのは小学校では当たり前という言い方は変なんですけれども、そこをどのようにして具体的に出していくかということによって、より分かりやすく保護者の皆様や市民の皆様に見えるのかなと思います。分かりやすいようにということになると、どうしても例えば豊崎小の「ふるさと『豊崎』を誇りに思う子」ですとか、そういうフレーズになっていると分かりやすいのかなと思いますが、それは先ほどお話なさったスローガンというふうな意味合いになるのかなと思います。</p> <p>今たくさん運動会もやっていますけれども、学校目標との繋がりはそんなに感</p>

	<p>じられないスローガンがたくさん出てきます。今築瀬委員がおっしゃったように、全部をひっくるめていくとそれが繋がっていくような、生活にもそれが繋がっていくような目標と言ったほうが分かりやすい。学力やそういうものは、本当にいっぱいいろんなところから出てくるのかもしれないと思ひまして、そういうことも考えながら私も学校訪問で拝見させていただきたいと思ひしておりますけれども、これらが良くいくように皆さんでそれぞれの部署で繋げていくことができればいいなというふうな感想を持ちました。</p>
岡本委員長	<p>それでは次に「小中野公民館防災拠点施設整備事業について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
船田社会教育課長	<p>(資料「小中野公民館防災拠点施設整備事業について」に基づき説明)</p>
岡本委員長	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問がありましたらお願いいたします。</p>
築瀬委員	<p>1 ページ目の4 番のところに、「3 部屋を借用し、座学を中心とした」と書いてあるのですが、どれくらい実施可能でやっているのかというのが分かったら教えていただきたいのと、あと1 番下のところに、自主クラブについては近隣の公民館を借用とあるのですが、現在の仮住まいの小中野公民館でもできているクラブもあるのかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。</p>
船田社会教育課長	<p>学校の教室をお借りしているということで、あまり大きな音を立てない、いわゆる高齢者教室の歴史講座とかというものになります。あとは調理室がございませんので、そういう実技的なのはできません。ただ、外に出る移動教室、バスで大野パークゴルフに行って健康的なものをやりましょうというようなものも加えますと、約半分程度以上は実施していることとなっております。</p> <p>あと、自主クラブについては、例えば高齢者とか平日の日中やっていて、特に大きな物音をさせないものについては、学校でそのまま自主クラブとして実施しているクラブもございます。</p>
築瀬委員	<p>分かりました。ありがとうございました。今のことにも関わるんですけども、今のように公民館活動が縮小せざるを得ないという状況にあるわけなんですけれども、ちょっと気になっていたのが、公民館の主事が3名だったのが2名に減じられているわけですね。1人定年だったと思うのですが。そのあと補充されていないということで、今の課長さんのお話から業務量が半分くらいという感じで考えていらっしゃると思うんですけども、ちょっと私が気になるのは、それが少なくなっても出納事務とか通常の業務、あるいは逆に他の公民館を借りてい</p>

	<p>る場合、連絡とか物を持っていったり返したりとかそういった業務が非常に煩雑になっている可能性があるんじゃないかなと思います。そういった面で、業務の量だけではなくて、精神的な負担ですとかを考えた場合に、この1名についてまったく今後予算措置を考えることはないのか。あるいは考えることができるのかちょっとお伺いしたいと思います。</p>
船田社会教育課長	<p>学校を利用しているということで、いわゆる有料団体には一切お貸ししないということになっておりますので、冬期間のストーブの燃料費だけ現金出納が発生するということになります。あと時間も、土日、夜間という時間帯は貸しませんので、そういった事務は半分以下になるかと思います。あと、物のやり取りというものは、自主クラブ等においては一切ないというように伺っております。人員につきましては、3月31日までは2名体制、5月末に完成予定ですので、来年の4月1日からまた3名の体制に戻す予定としております。</p>
築瀬委員	<p>あくまでも私は財政的なことは分からないので、要望というかちょっとお聞きしたいんですけども、来年の4月から3名体制というのは分かるのですが、解体工事を今やっているわけで、8月あたりから建設にかかると思うのですが、今年度の後半からはいわゆるプロポーザル的な考えで、地域の考えを吸い取っていくというようなことで、館長さんもそういう会議に出席するとかがあると思います。あとは、開館準備とかセレモニーとか記念式典とか、あるいは自主クラブが戻ってくるとか、その当該年度にやるのではなくて今年度の後半からやっぱりそういう準備が始まると私は思うんです。今までの経験からいって。ですからそういったことを考えると、これまでも主事の中途採用をしていたように、いわゆる後期といいますか、ちょうど忙しくなる9、10月辺りからの中途採用というのはできないものか。あるいは出来なければ、市の本庁でやっているような臨時的雇用、そういったもので職員の負担を軽減してあげるとか。たぶん今はいいと思うんです。ただ、やはり後半になると、そういったことが増えてくるというようなことがあって、ちょっと私は財政的にはよく分からないものですから、そういうことが現場の声を聞きながら、要望があったらそういうことができないのか。これは社会教育課だけの問題ではなくて、財政的な問題があると思うのですが、どういふものなのでしょう。縛りがあると思うのですが。疲労困憊になってしまえば大変だなと思ひまして。</p>
船田社会教育課長	<p>職員の人数につきましては、館長と十分打ち合わせをして決めさせていただいております。来年度5月末完成ということですが、まだこれはあくまでも見込みであり、開館日が6月1日とか決定しておりません。当然、新しい公民館に備品とかを搬入したり、いろんな準備等がございますので、そういった意味でたぶん</p>

	<p>7月ぐらいにオープンになるのかなど。私の個人的な感想ですけれども。そういつた中、3ヶ月もあればある程度開館の準備はできるのかなと思っております。また、講座においても実質4、5、6月の3ヶ月間は同じような形、あるいはもうちょっと縮小した形になります。その辺はまた改めて公民館の館長と打ち合わせして、もし人数が足りないようであれば相談しながら進めていければと思っております。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>分かりました。明確な回答がなかったのですが、是非、今は良くてもだんだん出てくるものがあるので、十分に現場の声を聞いて、本当に職員の方が疲労困憊にならないように配慮していただければありがたいなと思っております。</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>それでは次に「平成 25 年度八戸市史講座の開催について」報告をお願いいたします。</p>
<p>藤田市史編纂室長</p>	<p>(資料「平成 25 年度八戸市史講座の開催について」に基づき説明)</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問がありましたらお願いいたします。</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>今手元にあって拝見させていただきましたけれども、本当に手に取りやすいもので、大変楽しみだなというふうに思って拝見しておりました。多くの市民が八戸市の歴史や生活につきまして興味が出ればいいなと思います。これに係っては非常に多くの方の協力をいただいておりますし、非常にそれぞれの思いも強いものですので、こういうものこそマスコミの方にも御協力いただきまして、是非多くの方に伝えていただきたいなと思っております。</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>そのほか、事務局から報告事項はありますか。</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>事務局からは以上のようなようです。 最後に「その他」ですが、委員の皆様から何かございましたらお願いします。</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>それではこれを持ちまして、平成25年5月の教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(午後 2 時 31 分終了)</p>